



新年お芽出とう ございます 令和2年元旦



〒349-0101 蓮田市黒浜3111-2

大畑電研株式会社

代表取締役 **大畑善夫**

TEL 048-769-1191(代) FAX 048-768-0718

E-mail ohata@ohdk.co.jp <http://www.ohdk.co.jp>

非常電源維持の不思議

常用電源が停止したときの非常用電源は消防法的には4種類あります。①非常電源受電設備 ②自家発電設備 ③蓄電池設備 ④燃料電池設備。①は名前がイカメシイ割りに自らは発電出来ず耐熱ブレーカーと800度の耐熱性能を持つ電路が火災にあった時若干の間電源が確保できるという余りさえない設備です。③の蓄電池設備は誘導電動機を稼働するには不向きです。④は実用上まだ問題があります。従って災害時実質的に対応できるのが②の発電設備です。



この維持については様々な分野の者に与えられたバラマキ資格があります。消火栓、スプリンクラーの発電設備には消防設備士、点検資格者。建築設備である排煙機には法的には建築士が可能です。電気設備なので電気関係の資格者にもできます。構造的には自動車のエンジンに酷似していますが車の整備士は対象外です。このへんを明瞭にするために今は昔(昭和53年)発電設備のプロパー「一般社団法人日本内燃力発電設備協会」が中心となり自家用発電設備に拘わる専門技術者制度を制定しました。資格の内訳は「装置部門」「据付工事部門」「保全部門」です。

※特殊電気工事士(ネオン工事・非常用予備発電装置工事)

私が疑念を持つのは数年前の改正で**30%以上の**負荷試験をせよ、という規定ができたことです。半世紀以上消防法の仕事と電気工事業を併業し建築設備関係の管理業もしてきました。消防法の特徴はトップダウンの厳しい世界です。それが全負荷でなく30%でもいい、というのです。具体的には屋内消火栓は3.7kw~15kwが一般です。スプリンクラーにしても11kw~22kwが多いです。誘導電動機である消火ポンプは始動時の起動電流から3倍程度の20KVA~75KVAの発電機を選定します。この単体負荷を30%試験でいいというのです。病院など消防設備外に各種電気設備が数倍あるケースなら理解できますが、手術室その他の設備は消防設備ではないのです。さらに啞然とするのは30%以上でなく30%の起動試験をしなければならないような見解を権威をもって説明する組織があることです。因みに当社は必要資格をすべて持ち消防設備は全負荷試験をしています。

首里城火災の不思議

消防設備、電気設備の工事を併業しているので報道記事を注意深く見えています。

原因が特定できないケースで安易に罪を着せられるのが漏電です。電気火災のうち漏電は10%もありません。電気火災で意外と多いのが接続不良による発熱です。そして一般にはなじみの薄いトラッキング現象です。主にコンセントに埃が蓄積しその埃に電気が流れ出火するというケースです。今回は1階の電灯分電盤が原因のようです。トラッキング現象とは「埃の蓄積による漏電現象」ということですが正しくは漏電ではなく「埃が導電体となり電極間に抵抗回路が形成されジュール熱が発生する」である。因みに乾燥した埃は導体では無い。水分等を吸収したり金属粉や樹脂粉を含むと導体となる。回路源のブレーカー容量を超えトラッキング回路に電流が流れるとジュール熱によって出火源となる可能性がある。首里城の場合外壁の漆は可燃物の樹脂である。室内空気に多少漆の粉塵が混入していたかもしれません。統計上スプリンクラーがあれば96.2%以上1、2ヶのヘッドで消火していますがここには生憎スプリンクラーは無かった。天井高が8M以上あったのかもしれませんが。天井が高いと水は霧状になり消火効果が無くなるためとか。

奇説として貴重な文化財をスプリンクラーの誤作動で濡らせばという懸念から設置しなかった。という記事もありました。この論理からすると文化財のある建物にはスプリンクラーは設置できなくなります。因みにスプリンクラーの誤作動率は火災報知器の100分の1以下です。

さて私案ですがこんな設備があったら如何なものでしょう
屋内用自動放水銃 出火源を特定すると床に設置してある自在自動放水銃が火源に放水する(現在のロボット技術で可)
屋内壁保護自動流水設備 通常火災は壁から燃え上がる筈・例えば10m スパンで壁上部に布設した散水管で壁面に自動的に水を流す。

今回の被害額は七十億円以上とありました。改めて調べました。F-35戦闘機1機125億円。ポセイドン290億。ステルス戦略爆撃機2400億。余談ですが意味不明の人事院経費は戦闘機以上と思われれます。



サトル・エネルギー学会

落語の世界では八っあん熊さんは分からないことがあると横丁のご隠居にモノを尋ねます。80歳の手習い。私がモノを尋ねに行くのが **PSI (サイ) 科学会** や **Subtle (サトル) Energy 学会** の講演会です。因みに **PSI (サイ)** はギリシャ語で魂。 **Subtle (サトル)** は微かなという意味で 姉妹グループです。私は一年前からせつせとこの二つの会の講演会に通っています。この会のパネラーは先端の科学者でかつ不思議なこと (UFO、超能力、超常現象) 等に関心がある方、及び宇宙人と逢った方 (UFO体験はザラ)・霊と会話できる方・アカシックレコードにチャネリングできる方・スプーン曲げ程度はカンタンにできる方 等各界トンドにいる人種の集まりです。

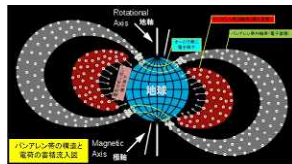
最初私がネットで覗き「おやッ」と感じたのは会場が意外と小規模だったことです。動画で垣間見る会場はせいぜい50名程度、中学校の教室程度で時には参加者がまばらです。この程度の後援会ならユニークな学者と時に気さくに質問もできそうです。予想通りでした。5時前に講演会が終わるとほぼ懇親会があります。1年前から当社の年賀状、暑中見舞いでご紹介するネタはこの会で仕入れたものが多いです。

お薦めしたい本

奇跡の地球共鳴波動 7.8Hz

志賀 一雅 著

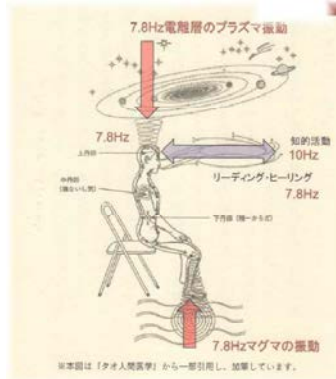
脳波にはベータ波 (β波)・アルファ波・シータ波 (θ波)・データー波 (δ波) があることが知られています。日常生活時に現れているのが (β波) で 12hz ~ 26hz



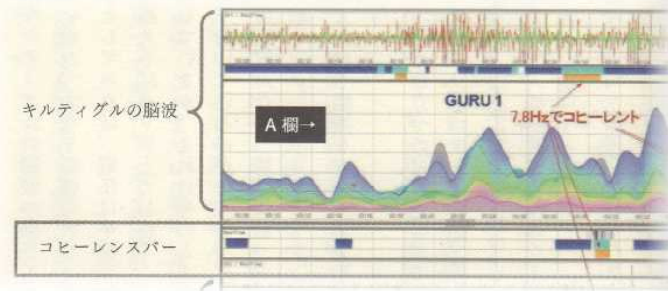
でその下の (α波) は 12hz (ヘルツ) ~ 7hz・それ以下は眠りの世界です。通常の人々が眠りに入る前の (α波) に特に拘ったのが松下技研・東京大学工学部計数工学科の研究者であった志賀一雅工学博士です。

この (α波) は様々な分野のエキスパートのパワーに関係ありそうだと気づき自らポータブルで高性能の脳波計を開発しました。それを持って普通の学者では考えられない好奇心でユニークな能力 (超能力者) の脳波を調べるのです

スプーン曲げで有名な清田益章 (きよた・ますあき 1962年生 現在57歳・かつてエスパーとしてユリ・ゲラーとともにマスメディアに登場した) 氏の脳波を調べたり、オペラ歌手の柏田ほづみさんが林で唄うと鳥が集まり、海で唄うとクジラの親子が寄って来るといった話を聞くと柏田ほづみさんを訪ねて脳波を測っています。何れも予想通り明らかに (α波) 特に (θ波) に近いスローα波が見られます。ここまでは「成る程なア」ですが志賀先生に脱帽するのは国内だけでなく海を越えて洞窟内でマントラを唱えると様々な形のものゝ物質化して現れる、というインドのジャイナ教の聖者を何度も尋ね脳波測定をしていることです。



志賀博士は2018年 インドのジャイナ教の最高聖者 キルティグルを訪ねその脳波を計測させて貰っています。何と90歳の盲目の聖者には常人とは比較にならない強い (α波) がでていました



このグラフがどういう意味をもつかは本を読んで見て下さい。志賀先生は瞑想の重要性を説いています。(α波) は凡人が超能力を発揮したり、アカシックレコード (神霊界) にチャネリングした時に高次元の存在と共鳴現象を起こしてとてつもない発明、発見をさせてくれる能力です。

アテンション・フリース!

インターネット上に **Global Consciousness Network** (世界意識ネットワーク) サイトがあります。このプロジェクトは心ある

人が同時に瞑想すればバンアレン帯の7・8hのシューマン波に共鳴して大きなパワーを発揮するという意図によって創られたものです。志賀先生もその発起人の一人です。

瞑想中はインドの聖者はマントラを唱え、日本のある方は般若心経を唱えるようですが志賀先生の考えによれば我々凡人は **良かった・有り難う** と思うだけでもいいのだそうです。

志賀先生は十年間朝6時にGCNを開き瞑想を続けているとのこと。かなり進んだ大腸ガンが2ヶ月で自然治癒したと述べています。GCNは文字通り個人を超えた **Global** な祈りや瞑想の場ではありますが個人の身体にも奇跡的な成果を生み出すことがあるようです。

関心のある方は開いてみて下さい。下図がそのトップページです。



5分間瞑想への誘い

時間を合わせて瞑想しますと、お互いのアルファ波が同調して潜在意識がつながり、喜びと満足・感謝の気持ち共有できます。心から満足を感じたとき多くの人に喜びのエネルギーを送り、辛いときには多くの人から喜びのエネルギーをいただきます。時間がないときは5秒間の瞑想でも効果があります。

音楽を聴きながら瞑想します

上の時計は日本標準時刻 (JST) を示しています。この時計で、12時、3時、6時、9時からの5分間は倉川万里奈さんの「麗美の海」が流れます。それを聴きながら一緒に瞑想しましょう。

面白いのはこんな素晴らしいプロジェクトなのに意外とここを訪れる人が少ないことです。このサイトには参加者のカウンターが表示されています。志賀先生が参加されている朝の6時はほぼ6人です。その一人が私です。「俺も、希少価値があるなア」と喜んでます。

「意識科学」 一意識が現象を創る

米田晃・前田豊 著

古稀を過ぎた頃から、現場作業も減り、足腰に支障が出始めた頃から読書量が増えました。様々な会を辞め、車も軽自動にすると本くらいは買えます。とはいえ難しい本に出会うと自分程度にも分かるように書いてくれる人はいないか、と別の本を読みます。懲りずに何冊も読むと同じテーマなのに「難しいことを易しく」「難しいことを面白く書く」(井上久談) 人に出会います。

「意識科学」一意識が現象を創る は此処10年間の私の雑学世界観の霧を払ってくれる貴重な書物でした。それぞれの方の広い視点と深い洞察に感嘆するのみで読解したとはいえませんがこの方向に希望を感じました。

かつての私は単純な唯物論者でした。終戦後はそれ迄の価値観が逆転し唯物史観の波が日本を覆ったのです。

1960年は安保闘争で樺美智子さんが死んだ年です。若者の大半は胸を張って左翼でした。正義は左翼にあり、真理は唯物論イコール科学であった。それがヒューマンイズムであり時代の希望であった。各地で唯物論研究会が開かれロシア民謡を唄って盛り上がっていた。1969年は東大安田講堂事件がありこのような流れは暫く続いた。

ハーメルンの笛につられ歩いていて私が立ち止まりUターンした理由は靈感とか不思議体験はないが「不思議な事」が次第に気になったのです。

①先ずこの世に自分がいることでした。他人より劣っていることは多々あり、人並み外れた能力はまるでないのに、そんな自分にも個別意識がある不思議。

②20世紀の初めまでの常識・時間、空間は絶対的、不変、不動のもので物質、エネルギーはその枠の中で固有の変化をする。それを究めるのが科学だ、とされていたのに時間も空間も物質・エネルギーの相互の変数だ、と言う不思議。

③さらに物質、エネルギーの様相を特定するのは「観測者」というとんでもない見解を出し終世アインシュタインと論争したニールス・ボーアの考えです。

「意識が現象を創る」現在でもややショッキングなタイトルです。古典的な唯物論最盛期の60年前なら発禁、もしくは焚書



にされかも知れません。内容はアンソロジーで巻頭の推薦文はアーヴィン・ラズロー、序文はサトル・エネルギー学会の帯津良一会長 9章の内訳は

第1章 科学の進歩と先端科学 前田豊 (意識科学研究所副座長)

第2章 意識科学について 米田晃 (意識科学研究所座長)

第3章 「意識とは」 前田豊、アーヴェン・ラズロー

第4章 対談「現代科学の枠を超える高次元科学」川田薫
米田 晃 前田 豊

第5章 対談 新しい物理学「意識科学」への誘い
桜井邦朋 米田晃 前田豊

第6章 朝日舞 小川博章 前田豊

第7章 猪狩文郎

第8章 前田 豊

第9章 米田 晃

錚々たる顔ぶれある。

面白いので付箋だらけになりましたがその一つ。私にとってのホットニュースは宇宙空間に偏在し光りを伝える媒体であるとされたエーテルの再評価です。御存知1887年 マイケルソン・モーリーの実験でエーテルは前世紀の仮説であって存在しないと証明されたのです。それにより1907年 二人はノーベル賞を受賞しました。ところが100年後の1986年、E. W. シルバートゥースは米国空軍の援助を受けマイケルソンより遙かに精密な器財を用いエーテル変流を検出したのです。この発見は世界的に権威ある「ネイチャー」に掲載され、更に翌年オーストリアのS. マリノフ によって確認されています。これはアインシュタインの相対論の根底を揺るがす問題とのこと。1986年と言えば既に30数年経過しています。知らないのはアマチュアの自分だけ「オオ恥ずかしい」とネットを検索し再び唾然としました。

マイケルソン・モーリーの実験は未だ健在で多数派のようです。そのような学者の方には「またエーテルなんて」と憫笑されそうです。この本の半分以上書かれている前田豊氏はある会合の懇親会でお会いしました。その方は講演会に参加した一聴講生の私に謙虚に対応されました。著書を読み流石アーヴィン・ラズローと対談された方だと納得しました。

「意識科学」は一度読み読み再読して書き込み付箋だらけになりました。本書はこの分野の総集編であるだけでなく先端科学の総集編です。関心ある方には是非お勧めしたい本です。

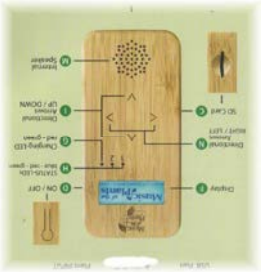


植物の心を唄います

「バンブー」ちゃん♪

人間以外のものも「こころ」を持っているといいます。

長年飼っている犬とか猫とか馬とか牛等にも「こころはある！」と言う人がいます。それどころか「天地同根万物一如」「こころ」は草や木も鳥にも虫にも石にもあるというのが仏教思想です。



1966年アメリカのクリーヴ・バクスター博士(2013年逝去。享年93歳)が偶々嘘発見器を使い鉢植えの植物「ドラセナ」(リュウゼツラン科)が人の想念にも反応することを発見したことは有名です。改めて「植物は気づいている」-日本教文社-を読みました。バクスター博士は「ドラセナ」だけでなく様々な実験を重ね細胞、バクテリアまで人の想念に反応することに気づきました。その結果を学会に発表しましたが「脳のない植物にそんな高等な神経機能がある訳は無い」と反応は冷ややかでした。バクスター氏は多くの非難、嘲笑にめげずさらに実験を重ねた結果バイオコミュニケーションの存在を確信しました。晩年は多く学者からその功績を認められましたが改めて先駆者の生涯に感嘆しました。

植物が固有のメロディを奏でるという「バンブー」ちゃんはサトル、エネルギー学会の講演会で実演され購入しました。

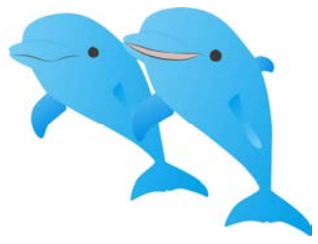
その後庭の植木で試しました。少し時間を置くとオルゴール色で異なった音色を奏でます。アース棒とクリップに電圧が掛かっている筈とテスターで測ると1ボルト以下でした。予め2~30の音色パターンがセットされ植物の固有抵抗に応じ機械的に対応するのではと思いますが今のところよく分かりません。

お伽話の「聞き耳頭巾」のように会話でき「今日は〇〇のもの影にお巡りさんが隠れているよ」「明日昼頃震度6の地震があるよ」「今度買う宝くじは当たるよ」等重要なお告げを聞ければ6万円では安いです。

バクスター博士の晩年の夢は巨大なセコイヤと交信することでした。「バンブー」ちゃんの上位機種が開発され樹齢千年のご神木と交信できたら100万円でも安いと思います。

手製マグネットシール

好みの画像をうみネットします。車のキズ隠しになります。冷蔵庫に張ってもイイヨ。



コケシ百態 200円~1万円

100円ショップで200円と300円のコケシを見付けました。カワイイ置物ですがそのままでは安定性がありません。気のきいた台座を付ければサマになりそうです。ホームセンターの美術品コーナーに行き数種類の木台を買い、接着剤でセットすると単体よりは見られます。因みにコケシ一般をネットで調べ何点か購入し、笑えました。一般通販では似たものが500円から1万円以上まであります。ご覧ください。違いが分かるでしょうか。



台座の方が高額



子連れの雪女



背景は手製の夕焼け屏風



背景はミニ金屏風

100円では買えないもの



吉見の百穴入り口の岩窟（高橋）売店は先祖が三代に亘りノミー一本で掘ったという。この店に私はほぼ半世紀通っている。
ミソおでん 300円
手打ちうどんが美味しい。

一円切手の肖像画

前島密のエライ訳

明治以前の通信や交通のシステムは、西洋のものとは大きく異なっていた。例えば、江戸時代の「**継飛脚**」は公用の文書しか運んでおらず、それとは別に民間が営業する「**定飛脚**」があった。江戸時代には頭を下げて役所まで行かなければできなかった様々な申請を郵便でも行えるよう官僚の彼が改革したのだという。今でも「返信用の切手を同封するので返送して頂けますか」と問い合わせると、同じ書類でも「ダメ、取りに来い」という役所と「いいヨ」と言う役所があります。前者は江戸時代の伝統を固く守り後者は前島密の考えです。長い間一円なので二円切手に格上げして欲しいです。

